

たたみ 森の屋

～住まいの心地よさを演出する「手作り畳」の普及と品質向上を目指す～

伊奈町羽貫にある小針神社の傍に「たたみ森の屋」が店を構えている。創業は、2019年9月と日は浅いが、店主の森野翔氏は33歳という新進の若手畳職人である。近年は、新築住宅が洋風化され、畳敷の和室の備えは鈍化しているが、その中、新規開業されたその経緯を伺いたく店を訪問した。店内には畳縫製機械や店主創作の畳台や飾り畳が飾られています。



畳作りに励む店主

—畳職人になろうとした理由となるまでの道のり— 店主は青森生まれですが、育ちは伊奈町です。青森県には優れた畳職人の祖父がおられ、87歳まで県内各地で後進の育成をされていました。その姿にあこがれ、更に日本独自の文化を継承したいとの思いから、この道に進むことを決断し、目標とすべき将来像を描いたと話されます。また伊奈町で店を営むことにより、地域にお住いの皆様に畳の問題解決で貢献したいと話されます。

畳作りは、茨城県畳高等職業訓練校で2年間、寮生活をしながら学ばれました。そこでは高度な手縫い技術が習得でき、畳職人の自覚が促されたといわれます。元々畳作りの前にはレザークラフトによる鞆作り等を手掛けられており、手作りの心得があり、同校への進学に当っては、日頃尊敬していた青森の祖父の推挙があったことも影響しています。



創作壁掛けと垂れ幕

—畳作りで心掛けていること— 現在は、伊奈町と周辺市町村から戸建住宅の畳の取り換え等の依頼を受けており、受けためぐみや恩に対し感謝の気持ちを持つという「報恩謝徳」の心を持ち仕事に取り組んでいます。現場では、お客様の声を直接聴き、現状を確認した上で最適最良な方法を提案する畳作りをしています。ちなみに畳替えは、55mm～15mm厚の畳床を対象に行い、畳表は熊本産イグサ、畳縁（たたみへり）は岡山産のものを扱い、お客様には多くの種類から選んでいただくようにしています。また、お寺の半畳・拝敷（はいしき：お坊様が座られる畳台）の製作も受注しております。特に紋縁（もんべり）が、神社仏閣ごとに形やデザイン

が異なるため高度な技術を要するものにも対応しております。

お客様に満足いただき、仕事を順調に行えるのは、これまで培った先輩・後輩の助け、地域の人の繋がりと感謝しており、これに応え事業を行うのも信条に合うとのこと。

—今後の取り組み— 店主は今後、経験を積んで、国内技能オリンピックに挑戦し、グランプリ獲得を目指すと話されます。創業を支援してくれた先輩の中には賞を獲得された方がおり、身近な存在です。将来は日本一の畳職人となり「一針入魂」の心で畳作りができるよう、常日頃の体力作りに励み、合間をみては技能向上を目指し創作をしていくとのこと。

またお店としては、クッション性の高い介護畳や小さな子供が転んでも衝撃を緩和してくれる置き畳みの開発に取り組むとともに、畳作りで出る端材、



紋縁（もんべり）

廃材を農業等で再利用し自然に戻す、環境に優しい取り組みを実現したいとのこと。

最後に店主は、畳を知らない子供たちに日本独自の文化を伝え、畳の良さを知ってもらい、100年先200年先に畳を残していきたいと語られていました。

（取材：上尾・アブセック）

たたみ 森の屋

住所：埼玉県北足立郡伊奈町羽貫 185-8 TEL：048-716-8273